

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成22年4月28日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200987		
法人名	社会福祉法人 春陽会		
事業所名	グループホーム MAO	ユニット名	3F
所在地	〒319-1223 茨城県日立市みなと町 10-10		
自己評価作成日	平成22年4月28日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

鉄筋構造の建物に一早いスプリンクラーの導入など設備面に加え、年に三度の防災訓練実施など、地震、津波、火災などと言った災害への備えを万全にしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護に込めた想いを、管理者、職員間で話し合い作成した理念を随時確認し、実践に向けての意識付けを行っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会や防災訓練等、ホームでの行事に地域の方を招いている。また、地域の清掃時には参加するだけでなく、1F会議室を休憩所として提供し交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と入居者の方たちとの交流は、事業所開設以来数回しか行っていないため、認知症の人の十分な理解や、支援の方法を伝えるまでには至っていない。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、議事録は各ユニット入口に配置し、自由に閲覧できるようにしている。会議では参加員の率直な意見や要望を伺い、日々のケア、サービスの向上に努めている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の事業所懇談会や連絡会に出席し情報を得るとともに、地域交流やボランティアの派遣等の相談をしている。月に1回の介護相談員の派遣を受けている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は夜間以外は施錠していないが、各ユニットの入り口については、建物の構造上安全確保の観点から、家族会に於いて検討、承認を得て施錠している。全職員に身体拘束ゼロへの手引きを配布し、拘束について正しく理解できるように努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットのスタッフルーム内に虐待の主な種類と具体例を掲示し、虐待にあたる行為について確認できるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで実施していない。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、事業者と家族間で読み合わせを行い、疑問、質問等はその都度説明をしている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、面会時等で家族の方の意見や要望を伺っている。また、玄関には意見箱を設置している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護ミーティングや申し送り時に意見や提案を聞く機会を設け、必要時は管理者、施設長、統括施設長間で検討している。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事考課や随時管理者や職員への聞き取りにより、その勤務状況を把握している。また研修参加や資格取得を勧め、レベルアップを応援している。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を早めに告知するとともに、職員の勤務調整を行うなど、研修を受けやすい環境作りをしている。また、研修参加者は介護ミーティングで研修内容を報告し、情報を共有している。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームとの合同の研修会や講習会に参加している。地域の行事には他のグループホームの入居者、職員を招待して交流の機会を設けている。加えて、知見者として他グループホームの推進会議に出席している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に施設長、管理者（ケアマネ）、看護師が本人と面会して、生活面、健康面等の心配事等を傾聴する。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時に主に施設長、管理者（ケアマネ）が本人や家族の状況について傾聴、事例等の説明をして介護へのアドバイスを行う。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況に応じて、在宅サービスの種類や福祉制度の紹介、グループホームと特養、老健とのサービス内容の違い等を説明している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、現在の日常生活において、できること、できないことを見極め、清掃や調理等を一緒に行ってもらっている。季節ごとの行事やならわしについても教えてもらったりしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの生活状況を詳しく伝え、職員と家族で課題を明らかにし、一緒に支援していくよう努めている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の昔の話をよく聞くなど、馴染みを忘れない働きがけをしている。特に制限のない方については、知人の面会も受け入れており、希望があれば家族やスタッフと共に外出している。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の仲介をしたり、レクリエーションを一緒に楽しむことで、入居者同士の関わりが持てるよう配慮している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望時には生活相談に応じている。特養MAOに入所した方については、訪設時、話し相手となり様子観察をし、必要時は先方の生活相談員、ケアマネ等と情報交換を行っている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の生活歴を把握するとともに、希望を伺ったり、言葉や表情から推察し、利用者の希望に沿ったサービスを提供できるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には主に家族にセンター方式の用紙に生活歴を記入していただく。入居後は本人との会話の中で生活歴を確認していく。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の活動状況をアセスメントに記入しており、定期的にケアチェックを行っている。又、職員間で入居者一人ひとりの現状が把握できるよう努め、申し送りや引き継ぎを行っている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、介護職、看護職で話し合い、介護計画を作成している。また、個別のノートに日々の申し送り事項を記入、課題の参考としている。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の期間に見直しを行っている。状況に変化のあった時には介護計画を見直し、家族等に説明すると共に話し合い、新たな介護計画を作成している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族等の要望に応じて、通院介助や買い物の付き添い等の支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、ボランティア、消防、社協との連携により、防災訓練や地区社協への参加、レク活動の支援を行っている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定している。定期的及び病状に応じての受診時は、家族または職員が付き添い、病状や生活の様子について医師に報告をしている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態について、介護職は定期及び随時に看護職に報告、情報を共有している。また、看護職は24時間体制で医療活動の支援をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーとの情報交換や相談に応じている。また、病状安定後は管理者と看護師が早期に実態調査を行い、退院後のケア内容を検討している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の項目の中で「重度化した場合における対応に係る（看取り）指針」を提示、契約時に説明をし、入居者の家族の同意を得ている。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命の講習会参加を義務付けている。また、有効期間内であっても、講習会への自主的な参加を勧めている。介護ミーティング時には急変や事故発生時の対応について、随時看護師から指導を受けている。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しており、消火訓練については地域の方にも参加していただいで、一緒に行っている。避難経路を各入口とスタッフルームに掲示している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちの有り様や、その場の状況を判断して、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。記録等は保管場所を決め、個人情報への漏洩に配慮すると共に個人記録の記入は利用者以外はイニシャルで表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや要望を気軽に話してもらえよう、常に声掛けし、コミュニケーションを図っている。こちらからの説明をする時には、ご本人に分かりやすい言葉を選ぶよう心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や要望を尊重した支援を行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の出張理容サービスを希望時に利用している。それ以外でも本人からの希望があれば、理美容院への送迎も行っている。また、希望時には化粧品なども購入している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に応じて、調理の下ごしらえや、食事の準備、後片付け等ができる範囲で手伝ってもらえるよう働きかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事と水分の摂取量をチェック、記録し、状態を把握している。お茶等はいつでも飲める環境を整えており、水分を摂りたがらない方には、ゼリー等で補給している。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶でのうがいを励行している。歯磨きについては、一人ひとりの状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意の訴えには、その都度対応している。訴えのない方については、個々の排泄パターンを把握し、適時さりげなく声掛けし誘導している。オムツ使用の方でも、昼間はトイレでの排泄を促し、本人に無理のない範囲で誘導している。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の量や状態について適時確認し、把握に努めている。個々の排泄パターンに応じ、水分の補給や運動を勧め、予防に努めている。必要時には医師に相談し、下剤を用いている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯は、基本的には午後となっている。入浴があまり好きではない方もおり、無理強いせず個々のペースでゆったりと入浴していただいている。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、ご本人のペースで休息していただいたり、睡眠が確保できるように配慮している。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を入居者様の個人ファイルに保管し、薬の目的、副作用、用法用量についても、全職員が確認できる状態になっている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割（清掃、洗濯、食事の準備等）や趣味を持っていきたいと過ごせるよう支援している。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、ご本人の行きたいお店に買い物に行ったり、天候の良い日には散歩や日光浴を行ったりしている。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理のできる入居者様には、小額のお金を持てるよう支援している。その他、必要に応じ、ご家族の方に購入していただいたり、立て替え払いの形で購入している。
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	希望時には、いつでも電話を掛けることができる。
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	レクリエーションでの手作りの作品や、季節にちなんだ飾り付けを行い、季節を感じ取れるように配慮している。
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有空間では、気の合った入居者同士で会話したり、テレビを見たりして過ごされている。ホールがあまり広くないため、独りになりたい時には、居室ですごされている。
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	必要に応じて、テーブルやイス、衣装ケース等を各自持ち込まれている。ご本人からの希望があれば、ご家族へ連絡し用意していただき、ホールでの生活が快適になるよう配慮している。
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	毎日の生活の中で“自立”や“援助”の部分を見極め、混乱しないよう全職員が統一したケアをするよう心掛けている。

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない